

普及活動検討会実施報告書

(美里) 農業改良普及センター
 実施月日：令和4年8月30日
 実施場所：美里農業改良普及センター
 現地ほ場

1 検討内容

No	検討項目
1	土地利用型農業法人の早期経営
2	実需のニーズに応じた「吟のいろは」の品質向上と栽培定着
3	土地利用型農業法人が取り組む加工業務用いんじんの生産安定

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者		生活者	
若手・女性農業者	2	学識経験者	1
市町村	3	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
No. 1 土地利用型 農業法人の 早期経営	4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤整備地域の法人化が県内でも多く、整備期間の経営は大変難しい。経営管理面の支援は、顧問税理士との協力により、さらに良いものが出来るのではと思う。 ・ほ場整備が進行中であり生産物が安定的に収穫できず、収支計画の見通しが立てられない状態だが、作物毎に適期作業を心がけて収量の安定化を図り、次世代への経営継承をすすめて欲しい。 ・法人化によるメリットが発揮されるよう更なる指導をお願いする。どの事業者においても共通する事業の目的は、「継続」と「成長」であり「存続」と「発展」でもある。 ・着実に経営の安定化が進んでいることが分かった。構成員の方全員でしっかりと取り組んでいることが素晴らしい。 ・管理作業で最も重労働の草刈りを組合員全員に分配委託したことによって高齢組合員の負担軽減にもつながり、また普段作業に参加できない組合員も法人への責任感を持つことが出来たと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象である法人の理事は会計勉強会等を通して財務状況や利益構造について理解が深まり、経営課題の把握や対策、後継者の確保について話し合いを行うようになっています。 ・今後も関係機関や専門家等と連携を図り協力をいただきながら、法人運営に必要な経営管理能力の向上や経営承継に向けた支援を行います。

		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年秋以降の天候不良，今年の集中豪雨により，ほ場条件が整わず，大豆作付を断念したほ場が管内で見受けられる。今後も普及センターと連携して，土地利用型作物の栽培技術向上に向けた取り組みを進めたい。 ・麓岳山と旧迫川に挟まれ低湿地地域での畑作は簡単ではなく，梅雨時期の大豆中耕等の管理作業で圃場が乾かず作業出来ないことがあると予想される。恐らくほ場によって乾きがいい圃場悪いほ場があると思うので，乾きがいいほ場は通常の大豆播種，乾きが悪いほ場は播種を遅らせて中耕をしなくていいよう狭畦播種をするなど一つの方法にとらわれない栽培方法を試みてはどうか。 ・支援対象と同様の課題を持つ法人は，今後も一定程度存在すると想定されることから，当該法人への支援を通じて得たノウハウを独自のメソッドとして構築するなど，今後の展開も意識したプロジェクト推進を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用型農業法人の多くは，転作作物が経営の大きな柱となっていることから，適地適作を踏まえた土地利用計画の策定や狭畦栽培等技術指導等の支援を行い，法人の経営基盤強化による早期経営安定を進めて参ります。 ・プロジェクト課題の活動内容と成果についてとりまとめを行い，支援手法やノウハウを共有し，各農事組合法人に対応した支援を目指します。
<p>No. 2 実需のニーズに応じた「吟のいろは」の品質向上と栽培定着</p>	<p>4. 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米価の大幅な下落の中，農家所得向上の取り組みは評価できる。県内又は，大崎・美里地区でどれだけの生産（売上規模）を目指しているか。 ・栽培年数が浅い品目であるため，引き続き栽培データの提供や栽培マニュアルの高度化をお願いしたい。主食用米から転換し，今後も需要が見込まれる。 ・実需者へのPRもしっかりと行われていることと，県，市への支援もしっかりされていることから，生産者が取り組みやすいマニュアルが確立される事を期待する。 ・実需者から品質の均一化を求められているとあったが，生産者側である程度揃えることはできると思う。例えば松山地域の場合だと，山あいでの溜め池の水で育った米と鳴瀬川沿いで川水で育った米では味・成分に違いが出るのは当然で，揃えるのはかなりの労力と技術が必要になると考える。実需者側も入荷した米をロットごとに成分分析を行い，山あいの米と川沿いの米をブレンドして，品質の均一化を試みてはどうか。 ・実需者のニーズの把握とそれに応えられるよう，栽培技術の確立に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・需要に応じて安定的に取り組める生産体制の構築を支援していきます。 ・前年度に設定した栽培マニュアルについて，今年度の調査データを踏まえて更新及び充実していきます。 ・実需者側との意見交換の際に検討するほか，生産者ごとに実施している各種調査結果を解析し，品質の均一化に向けて関係機関と共に検討していきます。 ・生産者や関係機関と共に取り組んでいる生育調査の結果を共有し栽培マニ

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域内での取組者増えているが、今後も品質を維持しながら需要増加にも応えられるよう進めていただきたい。 ・「実需者ニーズに応じた」取組ということで、マーケットインを意識した非常に魅力的なプロジェクトである。また、大崎管内には10の酒蔵が点在していることから管内1市4町との親和性も非常に高いプロジェクトであると感じた。 引き続き、栽培技術の定着と品質の向上に努められ、今後、管内市町への普及促進につながることを期待したい。 	<p>アルに反映させるなど栽培技術の確立に継続して取り組んでいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに取り組む生産者にも技術が定着するよう、栽培マニュアルの一層の整備を進めると共に、取り組みに関しての情報発信を強化していきます。
<p>No. 3 土地利用型 農業法人が 取り組む加 工業務用 にんじんの 生産安定</p>	<p>4. 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨被害により評価が難しい。説明にあったが、4法人(200ha)内での適地換地を考える必要がある。 ・集落営農が法人化した組織の、米だけに頼らない高収益作物と小牛田地域主力の大豆とのローテーションによる経営安定が素晴らしい取り組みであることから、小牛田地域に留まらず、管内に波及させるべきであると思う。 ・予定収量や生育状況など、目標通りに進んでいたようだが、水害により収量が大幅に減少してしまったのが悔やまれる。今後の災害対策に期待したい。 ・JAも連携して、生産・販売活動に取り組んでいるが、全体に収量が低い傾向にある。ほ場の排水対策や除草体系などの技術向上に向けて、今後も連携して取り組みを進めていく。 ・主食用米の生産、園芸作物への転換を図ることは現在の状況ではとても重要と考えている。下落した米価を補い、営農を継続できるよう今後も指導願う。 ・土地利用型野菜の推進においては、湿害対策が大きな課題の一つである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水田交付金の要件見直しが制約になるとの生産者意見もありますが、これまでも法人間で一部換地は行われており、より適地に集約し被害リスクを減らせるよう働きかけていきます。 ・大豆との作業競合を減らせる高収益作物のモデルケースとして波及効果を狙えるよう取り組んでまいります。 ・明渠の確実な施工による表層水の除去や、湿害に強い品種の検索、除草剤の適期施用等に引き続き取り組んでまいります。 ・大雨被害前では目標収量達成が見込まれたほ場がありましたので、今後もJAと積極的に連携し生産技術の高位平準化を進め、収益を確保できるよう取り組んでまいります。 ・湿害のリスク調査を継続し、ほ場に適した排水対策を提案できるよう研究機関

	<p>今回の取組では、湿害のリスク調査が行われカットドレーンや弾丸暗渠の効果が確認されたところである。今後、リスク調査を更に展開し、様々な土壌条件にあった湿害対策を具体的な事例としてまとめられことにも期待したい。</p> <p>今回の支援においては、大雨被害により目標達成には至らなかったものの、プロジェクトの取組が法人間の意識共有や連携強化に大きく貢献していることも評価したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の幾つかの法人が手を組み生産と出荷を安定化させている事は参考になった。現状の規模ではこのやり方が労力と採算のバランスがいいのかと思うが、今後規模拡大を目指す過程でハーベスター等の人ができる機械導入を検討しているのかが気になった。排水対策については昨今サブソイラやカットドレーンなど様々な作業機がありますが、そもそも田面と排水路の水面の高さに差がないとどんなに優秀な爪物を曳いても効果が現れない。その中で中塚地域の圃場は排水路が低く設計されていたのでより効果が高かったのではと推察する。 	<p>とも連携して取り組んでまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹作業における農機の共同利用など複数法人が連携する動きが見られておりますので、法人間連携の視点でも引き続き支援してまいります。 ・ 昨年、1法人で収穫機が導入されています。今後、作業効率や費用対効果を念頭に置き他法人での導入支援を検討します。 ・ にんじんは特に降雨後の地下水位を速やかに下げる必要があります、今回頂いた助言は重要なポイントと感じております。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営の安定のベースは、なんといっても確実な生産と適正価格による販売である。近年、異常気象（もしかしたらこれが当たり前になるかも）による生産の安定が厳しい状況が多々見られる。是非更なる生産指導に尽力願う。 ・ 様々な要素で厳しい環境だが、農業を継続できるよう指導願う。 ・ 令和4年度で、当JAほうれん草部会でグリーンな栽培体系への転換を事業導入し取り組むので、助言・指導のほどお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当所の本年度方針のひとつとして「持続可能な農業・農村の構築」の中に、「経営継続のためのリスク管理への取組支援」「自然災害等からの復興支援」を掲げています。 ・ 異常気象等の経営環境変化に対応して、生産安定に向けた支援を継続するとともに、想定を超える異常気象等で被災した場合は、復興支援に取り組む所存です。 ・ グリーンな栽培体系への転換については、栽培体系の検証や検討会の開催、栽培マニュアル・産地戦略の作成についてJAと連携しながら支援してまいります。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する

